

# 薬草園の花だより

第15号

2018年(平成30年)12月13日発行

## ■第15号に寄せて

異常といわれる気象にすっかり慣れてしまった感じがありますが、12月に入ってからの20度越えの気温はさすがに異常でした。しかし、その後、急速に冬らしさが訪れております。この秋はとくにあわただしく過ぎてしまい、いつのまにか師走に突入していたというのが実感ではないでしょうか。皆様、いかがお過ごしでしょうか。この秋は「灯火親しむの候」があまりふさわしくない感じもいたしましたが、いかがでしたか。



キャンパス内のあちこちでサザンカ  
(山茶花) が咲いています

この時期になると思い出されるのが「さざんかさざんかさいたみち～」という「たき火」という歌です。サザンカはツバキ科の植物で山茶花とも書きますが、もともと中国では山茶花とはツバキのことであるとか。ちなみにツバキに「椿」の字をあてるのは日本で行われていることで、中国では椿はチャンチンというセンダン科の全く別の植物（落葉高木）のことです。

ツバキとサザンカはお互いにとてもよく似た植物ですが、花が散るとき、ツバキは花ごとぼとりと落ちるのに対し、サザンカの方は花びらがバラバラになって散ります。また、ツバキは春に咲くのに対し、サザンカは今の時期が花盛り。どちらかといえば暖かい地方によく植栽される植物です。そのため、東北地方の仙台市にて生まれ育った私には子供時代にはあまり馴染みのない花で、この歌もなんとなく暖かい地方へのあこがれのようなものもあったように思います。今はたき火をすることも出来なくなり、この歌そのものも思い出の中に入っていくのでしょうか。暖房設備の普及などで「しもやけおててがもうかゆい」というようなこともほとんどなくなりましたし……。(船山)

## ■今咲いています・見頃です

### 《クズの根》

薬用植物園温室東棟の外の林の入り口付近にクズがヤマザクラに絡みつき、ものすごく大きく育っていました。茎（蔓）の太いところは直径7cm程にもなっています。過日、運営委員会の黒木委員が地面を背丈近くも掘り下げ、その大きな根を採取してくださいました。

現在、その掘り取った巨大な根を温室近くの外で乾燥しています。傍らには、クズの茎部分がヤマザクラの幹に絡み付いたものも同時に乾燥しています。いずれ、これらは漢方資料館の方に展示する予定にしていますが、この大きさのまでの展示はとても出来ません。展示する際にはガラスケースに入れられるサイズに切ってしまう予定なので、全体像が見られるのは今がチャンスです。是非、乾燥中の今の状態を観察されることをお薦めします。



巨大なクズの根

(手前に立てかけてあるのはクズの蔓がヤマザクラにからみついたもの／その大きさをベンチと比較してください)

### 《グロリオサの根》

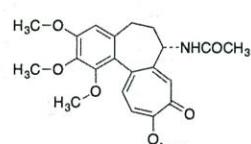
今回はもうひとつの根を紹介します。温室の中央棟の西側にグロリオサ（別名ユリグルマ／イヌサフラン科）が植栽されています。今は地上部がありませんが、夏になると赤や黄色のとてもかわいらしい形



グロリオサの根

をした花をつけます。かつてはユリ科に属していましたが、今はイヌサフラン科に分類されています。皆さんはその根を見たことがありますか。先日、植物の世話をしてくれる野本さんがその根を掘り上げて見せてくださいました。それが左の写真です。大きさは長さ20cm程。かつてこの根をヤマノイモと勘違いしてすりおろして食べて中毒したという事故がありましたが、なるほどと納得しました。

このグロリオサの根には第5号で紹介したことのあるイヌサフランの成分でもあるアルカロイド類のコルヒチン



コルヒチン

ンが含まれています。コルヒチンは分子中に窒素を含みアルカロイドの一種であることは間違いないのですが、その窒素はアミドとなっており、塩基性を示しません。また、その生合成の前駆体はインドール骨格を有するオータムナリンであり、とてもユニーク経過を辿って生合成されるので、学生諸君、もしも失念してしまっていたら、是非、教科書などで確認しておいてください。

## ■最近の他の植物写真から（6）

今回もキャンパス内あるいは周辺にて最近撮影した植物写真から、薬用か否かにかかわらず、いくつか選び出してみました。YNとあるのは薬用植物園の野本有香さん撮影によるものです。

薬用植物園の温室の中央棟内で小型のセッコクの花が咲いています。セッコクの仲間は洋ランとしてはデンドロビュームとして知られており、アルカロイド類のデンドロビンが含まれています。また、温室の東棟の外の圃場にてボケがさきはじめました。この花、近くで見るととてもきれいです。なお、薬用植物園の入り口付近ではいまだにボリジが満開です。夏から咲いていますから本当に花期の長い植物ですね。12月となり、さすがに花をつける植物は減っていますが、木の実が美しい時期になりました。図書館近くの歩道わきではクロガネモチの果実の赤味が増してきましたし、温室の東側の林の入り口付近ではムラサキシキブが藤紫色の果実をつけています。



セッコク (YN)



ボケ (YN)



クロガネモチの果実



ムラサキシキブの果実



ボリジ (YN)

## ■薬用植物園からのお知らせ

### 《ゆず茶召しませ》

前回の「薬草園の花だより」でも御案内しましたが、薬用植物園にてはユズがたくさんの果実をつけました。この柚子を使って今年も「ゆず茶」を作って皆さんに楽しんでいただこうと「ゆず茶召しませ」の企画をしました。

来る12月20日（木）の12：00～14：00に、是非、薬用植物園の温室にいらしてください。あたたかい「ゆず茶」を用意しています。あたたかいゆず茶を手にしながら、温室や薬用植物園内を散策するのはいかがでしょうか。

小春日和になればいいですね。



ユズ

発行：日本薬科大学薬用植物園管理運営委員会  
委員長（薬用植物園長）／船山信次  
副委員長／山路誠一  
委員（教員）／野口博司・西川由浩  
新井一郎・糸数七重  
委員（事務）／今村隆・中野雄太・鈴鹿和子  
土屋翔太郎・佐藤智恵・黒木重夫  
オブザーバー／野本有香（薬用植物園）